

ごあいさつ

いび川農業協同組合
代表理事組合長
林 正明



平素はJAの各事業に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

令和7年度を振り返りますと、農業分野においては、気候変動による異常気象が頻発し、農業生産への影響が顕在化しています。揖斐郡では大きな気象災害等はなかったものの、高温障害や病害虫被害が発生するなど、農作物に悪影響を与えました。また、令和6年から始まった令和の米騒動は、令和7年も高値傾向が続きました。生産費用が考慮された合理的な「適正価格」が持続可能な米生産につながると考えます。

金融分野においては、日本銀行が政策金利を段階的に引き上げ、長らく続いた低金利から金利のある世界へ移行しています。今後も賃上げの継続、物価安定目標の達成を背景に、追加の利上げが予想されています。

そのため、当JAでは、低金利時に購入した債券が、金利の急激な上昇により価格が下落し、評価損が拡大しました。本来、満期まで保有すれば額面で元本が償還されますが、令和8年度以降の安定的な収益基盤を確立するために、低利回りの債券を売却し余裕金運用の見直しを図りました。その結果、当期に損失金を計上し、損失金解消に伴う内部留保金の取り崩しをすることに至りましたことを遺憾に存じ上げ、併せて組合員の皆様にご心配おかけしますことお詫び申し上げます。今後は将来の安定経営を維持するために最大限努力してまいりますので、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

さて、令和7年度は、第11次中期経営計画(令和7年度～9年度)の初年度として、基本目標である「次世代につなぐ持続可能な農業の実現」「食と農を支える仲間づくりによる地域活性化への貢献」「持続可能な総合事業経営のための経営基盤強化」を基本目標と定め、取り組んでまいりました。また、組合員の皆様のご意見を経営に反映させるため、様々な機会を通じて対話を実施してきました。令和8年度は、第11次中期経営計画の2年目として、対話で頂いたご意見やご要望を反映した取り組みを実践してまいります。

今年度も組合員や地域の皆様の負託に応え、必要とされるJAを目指してまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

令和8年7月